

Title	本年度学位授与論文および単位修得論文
Author(s)	
Citation	一橋研究, 6: 91-92
Issue Date	1960-06-30
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	<a href="http://doi.org/10.15057/6782">http://doi.org/10.15057/6782</a>
Right	

# 本年度学位授与論文 および 単位修得論文

(…)内は、指導教官を示す

## 博士学位論文

### 法学研究科

国際私法上の先決問題の研究

舩場 準一(久保岩太郎 教授)

### 社会学研究科

フリードリッヒ・マイネッケ研究

—その歴史的・政治的思考における

国民国家とヨーロッパの世界—

中村 貞二(高島 善哉 教授)

## 修士学位論文

### 商学研究科

ヴァッター資金説の研究

桜井 友久(片野 一郎 教授)

ゲーテンベルク経営経済学説の対象と課題

平田 光弘(藻利 重隆 教授)

農業の金融機構

ポンキ・スパンカット(高橋 泰藏 教授)

在庫問題の数学的考察 藤田 忠(久武 雅夫 教授)

アメリカ会計士監査制度の史的考察

三沢 一(番場嘉一郎 教授)

生産設備能力測定に関する研究

森 清(松本 雅男 教授)

シェファアの企業観 —彼の著書『企業論』から—

吉田 一章(藻利 重隆 教授)

### 経済学研究科

動学理論における資本測定の問題

長谷田彰彦(高橋長太郎 教授)

ドイツのインフレーション(1914~1924)

加藤 寛孝(中山伊知郎 教授)

寡占と技術的進歩

鮎沢 成男(都留 重人 教授)

ドル問題に関する考察

米田 公丸(赤松 要 教授)

経済成長径路の安定性 —カルフア理論の展開—

田村 貞雄(中山伊知郎 教授)

マックス・ウェーバーの初期農業論

山本 景英(増田 四郎 教授)

技術進歩と成長径路 藤野 志朗(山田 雄三 教授)

国民所得構成比変化の実証的研究

水谷 貞子(山田 雄三 教授)

不完全競争と経済変動過程

松田 芳郎(山田 雄三 教授)

個人所得論

小林 威(木村 元一 教授)

景気の上部転換に関する一研究

山田 克己(都留 重人 教授)

### 法学研究科

普通取引約款 石田 栄一(田中 誠二 教授)

国際離婚の裁判管轄権 海老沢美広(久保岩太郎 教授)

訴訟における民法202条の意義

池田 光晴(田中 和夫 教授)

フランス株式会社法変遷論

青木 英夫(吉永 栄助 教授)

支配集中に関する若干の問題

上野 勝(吉永 栄助 教授)

ローマ法の継受とその原因に関する研究

勝田 有恒(町田 実秀 教授)

刑法における財物概念 平山 信一(植松 正 教授)

大陪審 居林 次雄(植松 正 教授)

共謀共同正犯について 工藤 克志(植松 正 教授)

### 社会学研究科

モンゴル言語文化の研究

田中 克彦(亀井 孝 教授)

カッシラーのジャン・ジャック・ルソーの問題

—ルソーにおける道徳と宗教の関係—

中島 巖(坂田 太郎 教授)

エピクロスの倫理思想

—快楽論を中心として—

岡野 哲士(藤井 義夫 教授)

ベリンスキーの文芸思想 —国民文学の理念と方法—  
 藤井 一行(金子 幸彦 教授)  
 リカード理論と恐慌 篠原 三郎(高島 善哉 教授)  
 スラヴ主義研究試論 多田 博一(金子 幸彦 教授)  
 初期ドイツ騎士団史の研究  
 阿部 謹也(増田 四郎 教授)  
 モーゼス・ヘスの社会主義  
 畑 孝一(高島 善哉 教授)

### 博士課程単位修得論文

#### 商学 研究科

資金理論研究序説

—ヴァッター資金理論を中心として—

市村 昭三(古川 栄一 教授)

米国における実際原価概念の研究

岡本 清(松本 雅男 教授)

#### 経済学 研究科

ウィリアム・タムスン研究

—初期英国社会主義研究の序章—

上野 格(高島 善哉 教授)

「資本論」における平均化機構の研究

高須賀義博(都留 重人 教授)

金融の機能

—貨幣経済理論における二つの基本問題—

花輪 俊哉(中山伊知郎 教授)

経済進歩の理論

—財変換と経済行動の基礎理論—

藤井 隆(中山伊知郎 教授)

#### 社会学 研究科

テュルゴアの歴史思想の生成と発展(上・下)

渡辺 恭彦(上原 専祿 教授)

### 編集後記

■ 本誌刊行の経済面につき例年のごとく一橋大学後援会基金より援助を受けた。言うまでもなく、後援会基金は先輩各位のご好意の結集である。われわれは、先輩各位および山中学長はじめ一橋学園に深く感謝するものである。また印刷所につき大橋・川村両先輩から大変お世話になった。ここに記して、あつくおん礼申しあげる。

■ 本誌の性格につき、第1回の編集会議より激しく論争されたが、結果として従前通り、大学院

学生会の機関誌および学術誌の2面性をとることになり、巻頭・巻末の上原教授および畠山前理事長の文章の収録は、この意味からなされている。

■ われわれは本誌の従来の規格を変更して収容能力の増加をはかったが寄稿の1部しか収録できなかった。ページ数・発行回数増加は現時の財政状況では不能である。かかる財政問題の解決のために、また寄稿の内容の充実のために、さらにいっそうの努力をつくす必要がある。いずれにせよ、他の問題に見せた熱意をもってすれば、この

問題は打開できると期待するのは編集子の独断であろうか。

■ 本号発行の遅延はわれわれが経済問題に全く無知無能であったためで、深くお詫びする。

■ 本号の編集は大家・塚場両委員の努力によることが多く、校正については、田中幸子氏(津田塾

大学)のご協力を得た。われわれのわがままを通してくださった佐藤社長はじめ一色印刷の方々に深く感謝したい。

■ 第7号の編集委員会は、青木英夫君(法・研)を中心に構成される。委員会参加希望者は、積極的に同君に申し出でられたい。(中川 和彦)

### 一橋研究 第6号 (非売品)

1960年6月30日発行

編集：一橋研究編集委員会

代表 中川 和彦

発行：一橋大学大学院・学生会

東京都北多摩郡国立町

印刷所：一色印刷株式会社

東京都文京区茗荷谷町16